

学会印象記

第 21 回日本エイズ学会印象記 検査相談と予防分野の印象

中瀬 克己

Katsumi NAKASE

岡山市保健所

会場が平和記念公園内にあり、会場周辺を歩くと近隣から海外まで多くの訪問者がおられることが感じられた。モニュメント、原爆ドームが一直線に見え、原爆が投下されたその現場であるこの地に立つことで自然と身が引き締まる感覚が湧いてきた。そして自らの今の仕事を問う気持ちにもさせられた。広島そして平和記念公園という場で開かれたことは、今回の参加者に他の地とは違った気持ちを抱かせたのではないだろうか。

さて、仕事でかかわりが多いことから主に予防や検査相談に関する内容を中心に参加させていただいた。

検査・相談、予防では NGO の元気に比べ保健所など行政関係者の発表が少ないことが気になった（HIV 検査相談、予防啓発、MSM）。この数年大変盛況であったこの分野のセッション（OS09, OS10）の込み具合は、今年は沈静化した印象を持った。高田会長のご尽力により十分な会場の広さが確保されたこともあるが、保健所・自治体への HIV 即日検査の導入が進み、ある程度落ち着いたことも影響しているのではないだろうか。先進的に導入した保健所や新たな試みにチャレンジした行政職員と研究者・NGO との熱気ある討論の時期は過ぎたとすれば残念な気がする。3 日目午後という日程上の理由もあるかと思うが、第 1 会場という最も広い会場で行われた HIV 検査・相談のシンポジウム（SY12）は、参加者がまばらと映ってしまった。しかし、HIV 即日検査の導入は、保健所にとっては日々の業務に組み込まれることで大変大きな出来事である。そして年間 1,000 件以上の検査相談を行う保健所が国内に 10 か所以上誕生したことは、今後の性感染症・エイズ対策に大きな影響を与える可能性を秘めている。

少し寄り道となるが、性感染症対策の歴史に触れたい。倫理観に左右されず拡大防止の実効を上げるには、性感染症の検査・治療は公衆衛生施策として公的機関で秘密を守り無料で行うというのが、梅毒対策を通じて先進国（ヨーロッパ）が学んだ教訓である。米国、オーストラリア、カナダなどでも都市部には検査・相談・治療を行う sexual health center のような施設が設けられ、その伝統は踏襲されている。わが国でも、第 2 次世界大戦後、GHQ の指導により保健所で性病検査・治療を無料の原則のもと実施し、

性病予防法では公設の性病診療所を謳っていた。しかし、保健所での性病治療は昭和 30 年代半ば（1950 年代末）には早くも中止され、性病診療所も多くが民間病院を代用診療所とするという名目で実効性の低い運用にとどまった。最後まで残った大阪府立万代診療所も平成 14 年（2002 年）廃止されたが殆ど反響の声はなかったという。我が国では、性感染症対策は公衆衛生施策として行うべきという伝統は定着せず、残念ながら公務員の覚悟は低いと言わざるを得ない。

今回の学会のテーマは、「Step up! 情報と教育」であったが、印象的な演題に佐久総合病院における研修医の発表（OS47-326）があった。残念ながら当日は指導医による代理発表でありご本人の声が聞けなかったが、エイズ治療を通して様々な医療の課題に直面することを意図した研修計画の考え方は大変素晴らしいものである。人を育てることへの責任を感じさせられた。また、サテライトシンポジウム（SS02）は MSM 向け予防介入プログラムの海外・国内での現場経験を交えたセッションであり、翌日のワークショップ参加者も募っていた。エイズ対策として具体的サービスの拡大や質の向上をめざす Step up!

今回は学生・専門学校生は参加費無料ということで、助かったという声を聞いた。その一方、昨年に行われた youth 向けプログラムがなかったのは残念という声も聞いた。これは国内・外の youth 自身が運営に参加しピアプログラムの実際など経験の交流を行ったものである。会議の性格が多少異なるが、2006 年トロントで開催された国際エイズ会議では youth からの発信を研究者を含めた大人に届けるため全体会議で発言させるなどの工夫を積極的に組んでいた。これはプログラム委員でもある自分自身が最も反省しなければいけないことであるが、社会分野の一つの項目として次年度は是非検討をお願いしたい。

朝 8 時からの教育公演も良かった。早朝にもかかわらず熱心な聴衆が集まり、その分野の初心者向け概論がお聴きできる機会は私も利用させて頂いた。「Step up! 情報と教育」という今回のテーマに一致するのは勿論だが、学際的な性格がある本学会の広がりにも寄与したのではないだろうか。今後も継続を期待したい。